

第3章 本町農業の将来像

1 本町農業の将来像(30年後(おおよそ2050年))

●本町農業の将来像(30年後)

本町農業の現状や特徴、取り巻く動向、国や県のプラン等を踏まえて、本町農業の将来像(30年後(おおよそ2050年))を以下のように設定します。

しが竜王グッドサークル農業

ヒトとモノとカネが廻り、地域と環境と人の幸せにつながる循環型農業



ヒトが廻る



モノが廻る



カネが廻る

■竜王農業の将来像「しが竜王グッドサークル農業」について

- サークルの本来の意味は「円」です。円は廻ります。竜王農業を中心にヒトが廻り、モノが廻ることによってカネが廻り、それが地域や人の幸せにつながります。
- また、円は丸く、循環(サーキュラー)をイメージします。将来(30年後)にわたって求められる脱炭素社会に向けた「循環型農業」につながります。
- そして、サークルは「円」から派生し、「同好(同志・仲間)」という意味もあります。「未来の農業」というテーマで、同好の農業者、町民、事業者、町外の来訪者や企業等がつながり、「竜王農業を盛り上げていこう」、そして「その輪(サークル)を広げていこう」という意味を込めています。

●30年後の本町農業の姿(イメージ)

○プロフェッショナルな農業が展開

- ・集落営農組織や担い手に農地が集まり、ha規模のほ場で効率的な農業が展開されています。
- ・経営規模の大規模化や情報インフラが整備され、自動給水栓等最先端の技術導入が進んでいます。

○農村集落の活動が維持されるとともに、伝統文化が継承

- ・土壌、環境、風景、文化、風土が守られています(未来に紡いでいます)。
- ・町の将来を担う子どもたちが育ち、地元への誇りを育んでいます。

○多様な人(農業者・非農業者・事業者・関心のある町外の人)の交流

- ・農業者だけでなく、商工観光など地域経済に活気があります。
- ・農業者を含む町民が健康に、心地よく暮らしています。

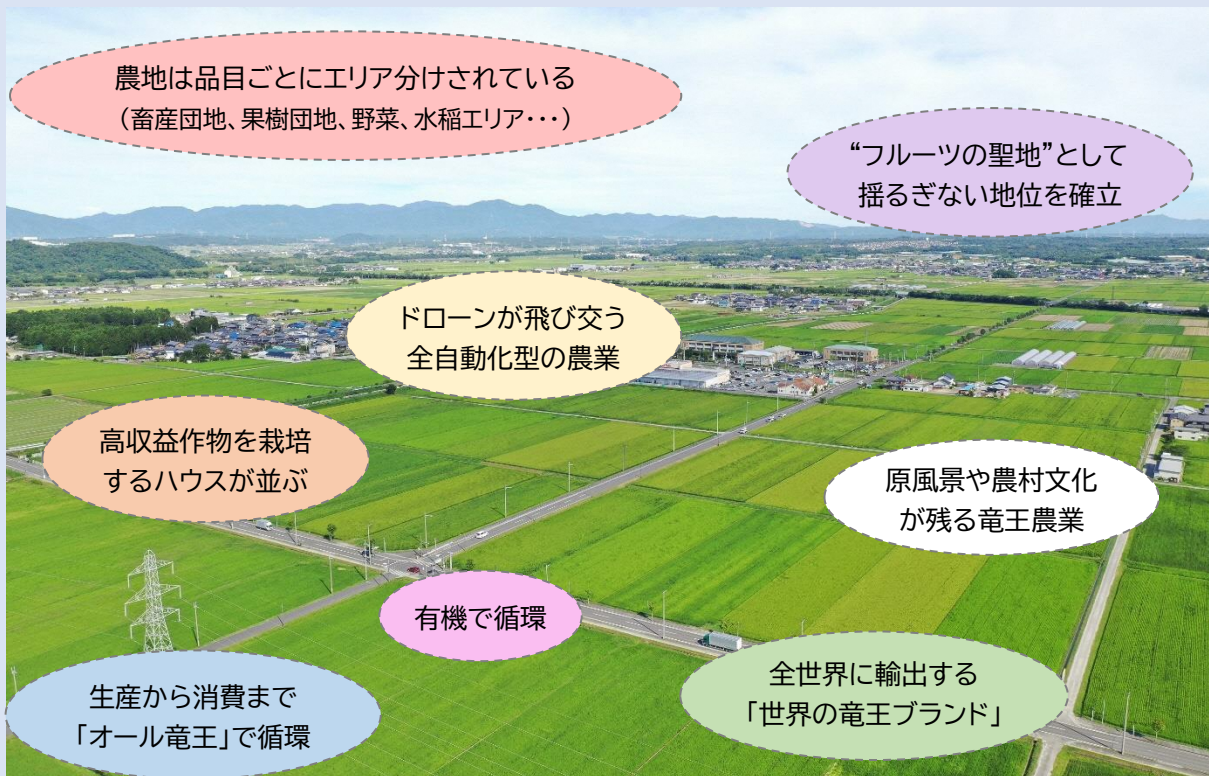
○優位な立地条件・自然環境を活かした農業が展開

- ・町全体のイメージが向上し、産地化により高いブランド力を有しています。

【参考】30年後の竜王農業(=しが竜王グッドサークル農業)

ビジョン検討にあたっては、竜王町農業あり方検討懇話会、農業者へのヒアリング、農業振興ビジョン策定委員会などにおいて、「30年後の竜王農業」に対する意見・アイデアをいただきました。

30年後の竜王農業(検討時にいただいた意見・アイデアの例)



2 将来像実現に向けた5つの戦略(この10年間に取り組む基本的方向)

本町が目指す将来像(30年後)を実現していくため、この10年間に取り組む基本的方向として、5つの戦略を掲げます。

■本町農業の将来像(30年後)

しが竜王グッドサークル農業

ヒトとモノとカネが廻り、地域と環境と人の幸せにつながる循環型農業



●5つの戦略(この10年間に取り組む基本的方向)

戦略1 魅力的な仕事として継続・向上できる「プロフェッショナル農業」

戦略2 町内外の交流を産み出す「観光・6次化農業」

戦略3 生きがいや福祉、教育など、町民の幸福度が向上する
「地消地産・健康農業」

戦略4 竜王町の原風景と環境を守る「土地利用型農業」

戦略5 未来社会を先導する「循環型農業」

